

パンタナール通信

南北米福地開発協会

会報

2013年5月1日

116号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護



パンタナールを象徴する花

(飯野記)

パンタナールには、年に何回か咲く花がある。また、次々と咲くのでズーと咲いているように思われる花もある。写真の花の名前は、現地の人も知らない。それでいてこの花程ありふれて湿地帯なら必ず見られるパンタナールを象徴する花は、同じような環境下で育つホテイアオイの花と双壁である。パラグアイ河の岸边や支流の湿地帯に群生して育っている。

雨期に潤っていた地に水が入ると、土の中に眠っていた根から芽を出し、茎が伸び、1mから2mくらいまで育ち、根で繁殖して次々に広がって、やがて花が咲き、それは見事にあたり一面が朝顔のような淡いピンク色の花で埋められていく。

青い空に風に揺れる様は清々しく、思わず惹きつけられてカメラが向けられる。パンタナール観光で訪れる人々の心をどれほどウキウキさせることだろう。当初、レダでも余りの繁殖力と生命力の強さに、何の為にこの花の木はこんなに沢山群生するのだろうと不思議に思っていた。

牛が食べると毒性があって酔っ払うということも聞いたが、結構草の少ない時などは、牛も食べているし、必ずしも酔っ払っていない。

しかし、牛は人為的に人が連れてきた動物だ。自然の中に何か他に必要性があって存在しているに違いない。

そう思っていたが、パクーの養殖を始めたことで、その疑問が解決した。草食性のパクーが好んでこの葉も茎も食べるのだ。天然の餌である。ミツバチや蜂鳥も喜んで花の蜜を吸っている。

パク稚魚放流計画

一月二十二日に孵化したパクの稚魚が、どんどん成長しています。

三月二十二日、二カ月経って、警察署の前の池から網で掬って大きさを調べてみました。素晴らしい成長を遂げていて、一〜二mmだったボウフラのような赤ちゃんが、既に三〜五cmに成長していました。（写真左）

イタイブーダムのメータ養殖場では、五cmの稚魚を川に放流しているとのことですので、レダでも放流プランを検討しました。

四月中旬に入って同じ池の稚魚を再度調べると更に成長し、五〜一〇cmになっていました。隣の池には、更に数万匹の稚魚がラッシュ時のような状態であるため、二月から稚魚用に準備してきた第二農場奥の広い池にも、分けて入れるようにしました。



また、新鮮な川の水を絶えず送りながら、酸素を十分補うように、シャワー状にしたホース口から池に水を入れられるように工夫しています。

写真右は、川の水をポンプで送るホース取付作業をしているところです。

放流予定が四月二六日に予定しましたが、放流の式典に参加するゲストの都合で、五月三日に決定しました。

アルトパラグアイ州では、パク稚魚の放流は初めてのことであり、大変注目されて来しています。

これにより、乱獲によって失われつつある魚など、自然保護、環境保護の意識と自覚が国民的に高まればと願うものです。

現在、環境省副大臣、農牧省副大臣、国連パラグアイ支所代表、アスンシオン大学水産科がある学部長及びマダノ教授など、またABC新聞社、アルトパラグアイ州知事やオリンポ市長、近隣の村の責任者などを招待しています。

日本からは、柴沼氏、アメリカからは松田氏が式典に参加予定です。

放流と共に、オリンポ市には、地域振興のため、千匹の稚魚を贈呈することになっています。

（文責：飯野）

放流の場所として、岬の支流に入るすぐ左側に放流しやすいように整備を進めています。写真左はその作業をする労働者達。



第19回ピースライフセミナー報告

4月13, 4日 埼玉県県民活動総合センター



第19回セミナー参加者



高津地球の緑を守る会理事長を迎え環境講座



植樹の重要性を話をする高津理事長



熱心に飯野副会長のレダ報告を聞く

参加者の感想

『レダで具体的に環境保全の活動が実り、素晴らしい実績が皆様の苦勞と真心により立てられている事に感銘を受けました。私も協力を惜しまず、また活動すべきだと思いました。また、高津理事長から樹木説明を受け、大学生の頃に学んだことが蘇りました。』

『私は2007年に南北米福地開発協会に加入、青年ボランティアへ参加しました。現地では2週間程、滞在し、さまざまな地域での活動で色々、勉強させていただきました。それから、6年間、毎月送られてくるパンタナール通信を見て、遠いレダの地で今も開発に励んでいる方々の記事を見て、勇気と元気を頂いております。現在の状況を知りたくて参加した今回のセミナーでは、具体的な活動内容と飯野先生の生の声を聞けてとても勉強になりましたし、改めて興味を持ちました。』

『セミナーの参加は2回目です。今回の埼玉の施設はとても快適で学習しやすいよい環境だったと思います。スタッフの皆様に深く感謝いたします。今回も近くに公園があり、日本の原風景の森林を説明する実物の木があり、ラッキーだと思いました。防災に役立ち、管理に手があまりかからないという日本本来の植物相の話に興味が引かれました。最近、地震が多発する折、防災林を造る運動を通し、地域に貢献できる活動をしていきたいと思いました。』



第13回国際協力青年奉仕隊隊員募集



第13回国際青年奉仕隊募集要綱

- 期 間：2013年8月26日（月）～9月11日（水）
8/24、5日：オリエンテーション・研修を行います。 8/26（月）成田発
後日、参加決定者にスケジュールの詳細を通達。
- 活動場所：パンタナール地域：トロパンパ村、レダ基地、エステ市近郊
活動内容：トロパンパ村植樹と学校修復そしてエステ市近郊植樹キャンペーン（市と教育庁と共催）
生徒代表等と植樹活動及び文化交流、
レダにて奉仕活動、自然探訪、学習会、乗馬、釣り体験、世界遺産訪問
- 参加資格：18歳以上25歳まで（健康に自信のある男女）
- 参加条件 ①小論文（400字以内）提出
テーマ：「参加の動機及び将来の夢」 提出期限：6月20日
提出先：南北米福地開発協会（FAX・Emailも可）
②小論文に各紹介者の推薦文を添付すること（希望者は事務局に用紙を要請してください）
- 合格発表：6月25日 直接該当者に連絡致します。
- 募集人数：12名 ●参加費用：15万円（ボランティア現地の支援）
成田ーアスンシオン往復航空チケット代、海外保険代金、滞在費等、は主催者負担。
（小遣い、家から成田までの往復費用などは個人負担）
- 申し込み及び問い合わせ先：南北米福地開発協会事務局 担当：柴沼
TEL：044-829-2821 FAX：044-829-2820 Email：office@asd-nsa.jp

地球家族として

自然を守りましょう

南北米福地開発協会

会員の募集中

南米、パラグアイパンタナール地域
へのエコツアーならびに植林活動
を通じて
生態系の維持と強化を促進し、その
地域をモデルとし、
世界に環境保護の大切さを
訴えています。
会費は月五〇〇円、毎月、パンタナール通信を送ります。
また、
各種のセミナー、エコツアー等の
案内をいたします。

南北米福地開発協会 事務局

〒221-3100

神奈川県川崎市高津区

溝口三十一番十五

電話 〇四四-八二九-二八二二

Fax 八二九-二八二〇

会費納入 郵便口座 〇一七七八〇四七一

代表 柴沼邦彦

ホームページ office@asd-nsa.jp
http://www.asd-nsa.jp